

No.23 移住定住・交流・観光の推進〈移住定住〉 （企画政策課）

令和5年度までにめざす姿

町内に住み続けることができる環境や体制の整備を図るとともに、町外から人材を呼び込むことで人口減少を抑制し、まちの活力の維持向上を図ります。

令和3年度にめざした成果

- ①町内の空き家を地域資源ととらえ、移住者向けの居住場所として活用し、地域の課題を解決する人材の誘致につなげます。
- ②必ずしも移住ではなく地域に継続的に関わる関係人口の拡大を進めることで、地域の課題解決や交流人口の増加による地域の活性化をはじめ、将来的な移住定住人口の裾野を広げます。

令和3年度にめざした活動

- ①移住希望者に居住場所を提供できるよう、新たな空き家の開拓と改修を進めます。
- ②関係人口の拡大を図るため、都市部の企業や大学等との連携事業に取り組みます。

令和3年度の成果

- ①令和3年度末までに新たに3件の空き家が確保でき、令和4年2月末現在で42件を95名が活用しています。
- ②・都市部の企業1社と、なんぶ里山デザイン機構が新たな連携プロジェクトを開始しました。同企業とは、地方創生の実現に向けた包括連携協定締結に至りました。
 - ・東京大学の学生5名と町青年団が交流を通じて、キナルなんぶの活用提案を行いました。
 - ・共立女子大と町青年団が、なんぶ里山デザイン機構の管理する空き家の利活用を目的とした中長期的なプロジェクトを開始しています。

令和3年度の問題

- ①令和3年度6月に町内物件所有者に空き家利活用アンケートを行いました。入居可能な空き家が不足していることが課題です。また、空き家以外の賃貸住宅や宅地の購入等の住まいを求める方向への物件が不足しています。
- ②人口全体の傾向として、出生数の減少や若年世代の流出超過が継続しているため、人口減少抑制につながっていない状況にあります。

令和4年度以降の方策

(1) 達成できた事項をさらに伸ばす方策

- ①なんぶ里山デザイン機構や地域振興協議会などの関係機関との連携を強化し、空き家情報等の情報収集を強化します。また、令和3年度に実施した「子育て世代をターゲットとした移住ニーズのマーケティング調査結果」を踏まえた広報戦略を実施します。

(2) 解決すべき問題への方策

- ①空き家の活用について、年度当初の全所有者への広報を毎年度行い、新たな空き家の確保に努めます。また、住宅適地のゾーニングを行うため、町内全体の土地の利用計画の策定に取り組みます。

(3) 新たに取組む方策

- ①空き家活用に関する新たなビジネスモデルを検討し、所有者及び入居希望者の様々なニーズに対応した活用策を提案します。また、潜在的空き家の管理が効率的にできるよう、町内空き家情報の一元管理ができるデータベースの作成を検討します。
- ②新たな関係人口創出につながるよう町内の既存施設を活用したサテライトオフィスの整備に取り組みます。

No.24 移住定住 交流・観光の推進〈交流・観光〉 （企画政策課）

令和5年度までにめざす姿

- ①町外からの交流人口の増加を図るとともに、地域内交流を促進し、地域の活性化を図ります。
- ②滞在・交流型観光を推進し、南部町の里地里山などの資源を活かした観光地としての魅力を向上し、来町者の増加と地域経済の活性化を図ります。

令和3年度にめざした成果

- ①南部町特有の里地里山の魅力を活かした情報発信による誘客拡大を図ります。
- ②サイクリングやトレイルランニング（※林道、砂利道などの未舗装路を走るもの）などのスポーツツーリズムに加え、農家民泊を中心とした体験型観光を推進します。

令和3年度にめざした活動

- ①観光協会による町の魅力発信と大山山麓・日野川流域観光推進協議会による広域の情報発信を組み合わせ 誘客拡大を図っていきます。
- ②里地里山の豊かな自然を活かしたサイクリングなどのスポーツツーリズムに加え、農家民泊を中心とした体験型観光をモニターツアー等の手法を用いて広くPRしていきます。

令和3年度の成果

- ①SNS、マスメディアを活用した情報発信を行いました。
里山景色フォトコンテストを開催しました。
ドライブスタンプラリーを開催しました。
- ②グルっとハッピーなんぶ・ひのサイクリングツアーを開催しました。
その他年3回のサイクリングイベントを開催しました。
農泊親子ワーケーションツアーを開催しました。
教育旅行誘致に向けて農泊標準食事メニューを開発しました。

令和3年度の問題

- ①情報発信を一面的に行うだけで、閲覧者の分析を行えていません。
- ②コロナ感染リスクの少ないアウトドアスポーツニーズを捉えていく必要があります。

令和4年度以降の方策

(1) 達成できた事項をさらに伸ばす方策

- ①観光客や交流人口を増やすため、マスメディアへの情報提供を積極的に行い、多くの方の目に触れる機会を増やします。
- ②コロナ禍において里山体験に対するニーズが高まっていることから、サイクリング、ウォークなどを主軸とするコンテンツで情報発信を行い、まずは近隣地からの誘客を図ります。

(2) 解決すべき問題への方策

- ①SNS・HPのアクセス分析を行い、南部町への関心が高い層に向けた観光コンテンツを開発します。
- ②自然豊かでスポーツが楽しめる町として、まずはイベント開催等において機運醸成を図ります。

(3) 新たに取り組む方策

- ①南部町を訪れたことがない方にも各観光施設のイメージを持ってもらいやすいよう、動画を活用した情報発信を行います。
- ②サイクリストに優しい町として、サイクルステーションの整備、レンタサイクルの充実を図っていきます。また農泊の利用者増を目指し、新たな体験メニュー造成や磨き上げを行います。